

槐

かい

岡井省二創刊

令和4年1月号

令和四年一月一日発行 第三十二巻第一号 通巻第三六七号（毎月一回一日発行）
平成三年九月十八日第三種郵便物認可



克己

高橋将夫

ド
ロ
ー
ン
の
上
か
ら
目
線
文
化
の
日
鵲
の
贄
を
笑
う
て
を
れ
ぬ
齡
か
な
秋
の
虫
短
気
の
虫
も
送
り
け
り
死
火
山
の
ま
と
ふ
紅
葉
の
錦
か
な

秋の夜のミシユランの星三つかな
色のなき風のテネシーワルツかな
秋うららまるで模様の抽象画
十月や心豊かによく眠る
ひそやかな命の姿 思草
世の中を見下ろしてゐる鬼の子よ
克己とは花野から出ることなりし

日月抄

高橋将夫 推薦

柿すだれ鴨居に並ぶ過去の顔
咲ききりし喜びのあり草の花
刻々と柵田を秋が下りてくる
名月と仰がれ気後れしてをりぬ
人も虫も終りなき旅してゐたる
無花果の万の甘味をふふみをり
秋天や未来へレットイトビ
佗び寂びて欲しき霜夜のビタミン愛
種茄子の仕上げの色となりけり
掘り出せし諸は大地の力癩
水音も景色のひとつ秋深む
振りかへる塔まつ黒や秋夕焼
マスク取れば感染しさう金木犀
鳶鳥鷺爽やか
秘め事や内緒事みな冬眠す
方言で鳴いてゐるなり四十雀
うち鳴らす心の鉦や秋暑し

三木 亨
阪倉 孝子
出利 葉孝
久保 夢女
中西 厚子
柴田 靖子
阿部 さちよ
高野 昌代
中 貞子
井上 静子
中島 昌子
橋本 順子
竹村 淳
岡田 桃子
星野 昭子
孫野 秀子
杉原 ツタ子

槐集

高橋将夫選

柿すだれ鴨居に並ぶ過去の顔

守口 三木 亨

無心から一心の音添水打つ
生き様を象つて秋の落日

父母の恩子に返しをへ照紅葉

勢ひの流れに任す崩れ築

咲ききりし喜びのあり草の花

枚方 阪倉 孝子

頭陀袋の幸を背負ひて登高す

天高し天馬と翔ける草千里

小鳥くるほんのり甘き玉子焼

世に百歩後れて歩み笑ひ茸

刻々と棚田を秋が下りてくる

大阪 出利葉孝

歩くごと足に絡まる秋の影

宇宙船地球の秋を眺めをり

親ガチャや感謝恨みも秋愁ひ

故郷は黄金色なりハロウイン

いまさらに影と言ふもの秋初め

竹原 久保 夢女

名月と仰がれ気後れしてをりぬ
脇見好し一途また好しちんちろりん
逃げおほすことのできない芒原
花芙蓉来世も女さうきめた
人も虫も終り無き旅してゐたる
秋日ざし全てを包み込んでをり
天に地に別け隔て無く月照らす
夢は夢としてそのままに良夜
寂寥や芒が風と戯れる
雁渡るそれぞれに尊厳をもち
無花果の万の甘味をふふみをり
水澄みて遠き故郷近くなり
食べられてたまるかと逃げ零余子かな
凸として露寒駆足で来たる

守口 中西 厚子

岡崎 柴田 靖子